



## 第29回青森県理学療法士学会を終えて

学会長 山谷 光仁

平成16年度の締めくくりとして、第29回青森県理学療法士学会を無事終えることが出来、皆様に感謝いたします。

昨年5月21日に第一回目の準備委員会を開催いたしました。その時から、大韓民国の方々の参加が予定されていたので、しばらくは会場の決定だけの状態でした。その会場についても変更があり、会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。

結局、第二回準備委員会は今年1月14日の開催となりましたが、その後は、各担当者の努力により、無事学会を迎えることが出来ました( )。

初日3月12日は、会場到着後に入った情報、「前日、韓国からの便が青森に降りられず仙台から向かっているらしい」にヒヤリとしましたが、無事到着していることを確認し、安心して準備状況を見守りました(私はあちこちうろろするだけ)。特に今回は、東北メディカル学院の学生さんにご協力頂きましたが、準備委員長の号令の基、準備委員と同様に働いて頂き感謝しています。

初日から色々ありましたが、学会は予定通り進行し、学术交流協定調印式も終了し、総会、そしてお待ちかね、情報交換会へとすすみ、一日目を終えることが出来ました。

二日目13日は、公開講演があり、朝早くから、伊藤日出男教授にはスライド確認をして頂きありがとうございました( )。あいにくの雪模様で、一般参加者が少なく残念でしたが、ケーブルテレビの録画があり、三沢市民の方は自宅で見える機会もあるかと思います。また、午後には、初めての試みとして、養成校学生さんのポスター発表がありました。教官指導の基とはいえ、十分な内容だったと思います( )。

終わってみれば、会員参加者89名とますますの結果だったのではないのでしょうか。しかしながら、最近、発表演題が少なくなっており、参加される会員にも魅力が薄れてきているように感じます。今回の学生さんの発表も、学会での発表に慣れてもらえればと思ったので、私は賛成しまし

た。

今後とも考えなくてはならないことが多くありますが、とりあえず、次の学会30回目です。記念になるような学会にするためにも、会員の皆様には、今学会以上のご協力をお願いいたします。もちろん、私もそこそこ協力しますので( )。

: 実は、第一回準備委員会後、個人的な理由で、学会のことは後回しにしていました。それでも、何とかしたのは、準備委員長他、各委員の努力のおかげだったと思います。

: また、実は、なのですが、前日スライド確認をした際、私がスライドを何枚か落としてしまいました。伊藤教授には、万全を期すため、朝に確認をさせていただきますか?、とお願いしましたが、私の失敗をごまかすためでした\*-\*。

: アンケート結果については、ニュースで報告する予定です。

: そこそこですよ^-^)。尾田学会長、頑張ってください!

# 県学会アンケート結果報告

学会準備委員長 村上 三四郎

先日行われた第 29 回青森県理学療法士学会で、学生発表セッションについてアンケートを行いましたので報告いたします。今後の学会運営を考える上で役立てたいと思います。協力してくださった会員の皆様、どうもありがとうございました。

## アンケート結果

### 1. 学生の発表内容はいかがでしたか？

- |           |    |
|-----------|----|
| • とてもよかった | 11 |
| • よかった    | 5  |
| • まあまあだった | 1  |
| • 今一つだった  | 0  |
| • 悪かった    | 0  |

### 2. 現在全国学会では「他職種（学生を含む）が筆頭演者の場合は、共同演者に本協会会員が含まれている必要がある」という形で他職種の学会発表参加が認められているのをご存知ですか？

- |         |   |
|---------|---|
| • 知っている | 8 |
| • 知らない  | 9 |

### 3. 現在青森県ではまだ公式に学生および他職種の発表は認められていませんが今後どう思いますか？

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| • 現在と同じく会員のみでの発表で良い            | 0  |
| • 全国学会と同じく他職種の発表も取り入れていったほうが良い | 13 |
| • 県士会の理事会でもっと検討すべき             | 3  |
| • よくわからない                      | 1  |
| • その他                          | 0  |

### 4. その他、ご意見ご感想がありましたらご自由にご記入下さい。

- 県士会員の発表がもっとあっていいと思いますが少ないので学生の発表も含んで良いと思います。採用基準は必要です。上十三の会員の皆さん、東北メディカル学院の学生の方々ご苦労様でした。
- 1) 学生に対する研究活動の動機として、

- 2) 大学・養成校の垣根を越えた学習の場として
  - 3) PTに対しても良い刺激となるので是非継続してほしい。（逆に萎縮してしまうと困るが）
- 座長が適切だったことも含めてgood!!
- 学生にとって良い経験になったと思う。
  - 発表する場所が狭い
  - 卒業後の業績として認められるように働きかけたほうが良いのではないかと。会員優先として演題数は制限すべき（1セッション程度）。会員の発表よりも完成度の高いものもあり、企画の成果はあったと考える。
  - 負けてられないと思う。

# 日韓学術協定調印を終えて

県士会会長 伊藤 和夫

3月12日、第29回青森県理学療法士学会において、韓国水原市物理治療士会との学術交流の協定書を取り交わしました。改めて紙面で協定内容を紹介し、同時に今後の方向性についての若干の私見を述べたいと思います。協定書の内容は、以下のごとくです。

青森県理学療法士会と水原市物理治療士会は、両国の親善および学術交流を促進するため、以下の協定を締結する。

1. 理学療法の実践と相互の親睦・交流を目的とし交流活動を行なう。
2. 交流内容は、お互いの創意工夫あるものとする。
3. 交流計画の推進にあたっては、十分な協議を経て行なう。計画の具体化には、随時提案し協議する。提案の細部については、個々に「覚書」を交わすことができる。
4. 本協定は、必要に応じて、改定、見直すことができる。

この内容については、理事会で検討はしたものの、過去の総会で提案している内容より、やや細部に突っ込んだものとなっております。当初は、もっと簡単な内容で検討していました。そもそも協定は1996年の青森側の韓国訪問時に水原市側から要望されていたものと聞いています。約9年の経過を経て実現したものと考えられます。この間、2001年と2002年過去2回の交流があり、今回は3回目になります。

過去の内容は、士会機関紙「理学療法学」に掲載されているように、お互いの士会活動の紹介を主にシンポジウム形式で行なってきました。しかし、このスタイルでは継続は困難であるという認識が双方で出ました。韓国側からは共同研究ができないかとの要望が出されました。内容的には、水治療法や物理療法では日本の実情には合致しないと考え、当士会としては、技術講習や研究発表はどうかという提案をしました。また、言葉の問題があり英語を中心の発表ではどうかとも打診しました。この点については、今後も協議を重ねて検討していく必要があります。また、同時に

以下の問題も残っています。それは交流の形式とでも言いましょうか、韓国側の認識としてはあくまで招待、招聘を前提に考えているようです。いわゆる「お国柄」の相違なのでしょうか、我が国との習慣の違いか、あるいは、そもそもの始まりからの延長なのかわかりませんが、経費負担の問題が絡んできます。この点についても、今後話し合い、協議を重ね、覚書を交わしていきたいと考えています。

いずれにしても、あまり形式にとらわれずに、気軽に訪問し、交流できることが両国間の交流を維持・継続できるものと考えます。現在のような韓流ブームにただ乗っているだけでは本当の意味での、長続きするものとは成り得ません。交流の内容がいつも検討されなければならないと考えています。その内容によっては、招待・招聘が妥当となる場合もありうると考えられます。士会員の皆様も大いに交流していただきますようお願いいたします。ちなみに本年10月30日のアジアPT学会はソウルで開催されます。ご検討ください。

# 平成16年度学術奨励賞審査結果について

表彰委員会委員長 石川 玲

平成16年度学術奨励賞審査の経緯と結果を報告いたします。今年度は士会ニュース No.261号（平成16年12月1日発行）に「平成16年度学術奨励賞選考への応募に関するお知らせ」を掲載し、士会員から学術研究活動の業績を広く募集しました。その結果、下記の1名と1グループが平成16年度学術奨励賞受賞者として選考されました。

受賞者：盛田 寛明氏（青森県立保健大学）  
川原田グループ

盛田氏は、著述3題（翻訳書、事典の共同執筆を含む）、論文2題、特許申請1、学会発表8題、報告書4題等多数の業績が高く評価されました。

川原田グループは過去数年間、障害児に対する生活支援の取り組みを継続していることが評価されました。

「発達障害児の理学療法における目標設定の重要性」（理学療法研究）

青山 香、川原田 里美、横山 恵里

「障害をもつ子どもの学校生活支援」（理学療法研究）

川原田 里美、横山 恵里、青山 香、前田 真樹子（OT）

「脳性麻痺児の機能的動作獲得のための理学療法学校生活に必要な机上動作の自立を目指して」（理学療法ジャーナル 37巻9号 pp814-817 2003年）

川原田 里美、横山 恵里、秋元 真樹子（OT）、青山 香

## 平成16年度定期総会議事録要約

議長：白石 茂雄（青森労災病院）、板井英樹（百石病院）

書記：川口 恵理（シルバー病院）、福島 淳一（むつ総合病院）

議事録署名人：佐藤 誠剛（弘前市立病院）

須藤 真史（黎明郷リハビリテーション病院）

日時：平成17年3月12日（土）15:30～17:30

場所：三沢市公会堂（三沢市）

出席者：出席者67名、委任状134通、計201名（成立）

議題：

第1号議案 平成16年度事業報告

第2号議案 平成16年度会計・資産報告

第3号議案 平成16年度会計・資産監査報告

第4号議案 平成17年度事業計画・予算案

第5号議案 役員改選

第6号議案 協会代議員会提出議題

第7号議案 協会代議員選出

第8号議案 東北ブロック理事選出

## 《議案審議》

### 第1号議案 平成16年度事業報告

報告：事務局長 後藤明教

- ・平成16年度の士会員数は323名（休会19名）で、新入会員は19名であった。
- ・平成16年3月28日までに会費未納者が9名あった。
- ・理学療法研究22号は、予定通り出来上がり発送作業中である。
- ・研究助成の選考は、1件応募があったものの選考後応募者より辞退となった。
- ・理学療法研究を「メディカルオンライン」に掲載する契約を交わす。配信は平成17年4月からの予定。
- ・士会ホームページ管理を委託し、更新の頻度を増やし内容を充実

### 第2号議案 平成16年度会計・資産報告

報告：事務局長 後藤明教

### 第3号議案 平成16年度会計・資産監査報告

報告：監事 村上三四郎

- ・平成17年3月5日（土）青森県立中央病院において監査を実施した。（出席者：佐藤洋、村上三四郎、山田伸）
- ・会計は適正に管理されていたが、若干の指導を行った。

#### 【質疑応答】

- Q. 学術局主催の研修会の参加費について、他職種の方も参加の場合も同額は納得がいかない。
- A. 他職種の参加費については今後、適正額を検討する。
- Q. 士会学会の予算が、年度またぎになっているのでは、学会の会計処理が煩雑ではないか？
- A. 監査の指摘にもあったが、特別会計にするか今後検討したい。
- Q. 国際交流部では、県内在住の他国PTについての情報を得ているのか？
- A. 若干の情報はあるが、今のところ実際にコンタクトはとっていない。
- Q. 今年度選考の協会賞の候補はいなかったのか？
- A. 協会賞候補には、55歳以上との年齢規定があり、今回は該当者がいなかった。

第1・2・3号議案 承認

### 第4号議案 平成17年度事業計画・予算案

提案：事務局長 後藤明教

- ・会員増に伴い事務局機能の見直し、士会費の自動引き落としの推進。
- ・士会のホームページをの充実をおよび士会ニュースの発行回数の再考。
- ・学術局の研修会は例年通り開催予定。また、各専門部会についても設置に向け準備をすすめて行く。
- ・介護予防関連研修会の開催。
- ・介護保険対策の専門部を新設する。
- ・理学療法の啓蒙活動は、いろいろな企画にて継続していく。
- ・韓国水原市物理治療士会と協定書締結による今後の交流検討。
- ・第30回の県士会学会会長は、尾田敦氏に決定。
- ・第24回東北理学療法士学会に向け準備委員会活動開始。
- ・市町村合併の情報収集をおこない、各ブロックの支部化へ向け活動を継続する。

#### 【質疑応答】

- Q. 繰越金が多いが、士会費の減額を考えられないか？
- A. 急激な会員増により、事務局機能を円滑にするためには事務所設置などの対策が必要であり、会費の減額はその後の検討になると思う。
- Q. 医療保険、介護保険とも改定によって、いろいろ変化してきているので、早めに情報提供して欲しい。
- A. ニュース等でも、情報を流しているが、今後、診療報酬対策部、介護報酬対策部を充実させ、迅速に対応できるよう検討する。
- Q. 東北ブロック協議会総会がなくなり、情報がほとんど会員に伝わっていないのでは？
- A. 年2回の理事会報告は、要約を士会ニュースに掲載しているが、定款等は載っていないので、情報の共有化を図りたい。

第4号議案 承認

### 第5号議案 役員選挙

会長及び理事、監事ともに定数の立候補者があり、信任投票が行われた。選挙管理委員により2人の立会人（対馬新吾、須藤崇）のもと、開票作業がおこなわれ全員が信任された。

会長 伊藤和夫  
理事 中村正直、小村博、澤田隆憲、

監事 山谷光仁、相馬光明、佐藤比呂子、  
後藤明教、川口徹、村上三四郎  
山田 伸、三浦時男  
(届け出順、敬称略)

第5号議案 承認

第6号議案 協会代議員会提出議題  
介護予防理学療法士養成についてのビジョンや  
方法、今後の国への具体的な働きかけはどうす  
るのか教えて頂きたい。また、専門理学療法士  
の今後の位置づけをどうするのか示して欲しい。

第6号議案 承認

第7号議案 協会代議員選出  
伊藤和夫(あおもり協立病院)  
相馬光明(むつ総合病院)

第7号議案 承認

第8号議案 東北ブロック理事選出  
伊藤和夫(あおもり協立病院)  
川口 徹(青森県立保健大学)

第8号議案 承認

以上

## 平成16年度日本ボバース研究会東北ブロック研修会に参加して

東北メディカル学院 中江 秀幸

平成17年3月19～20日、古牧グランドホテルにて開催された研修会に参加致しました。青森県立はまなす学園の方々による準備の下、青森・岩手県を中心に東北6県の理学療法士・作業療法士が250名以上参加して開催されました。研修会の講師は、日本ボバース研究会名誉会長の紀伊克昌先生であり、講義とデモンストレーションが行われました。講義内容としては、ボバースコンセプト・変遷・今後の課題などが中心でありました。治療デモンストレーションは、第一日目が小児、二日目には成人の中枢神経疾患をケースとして各々1時間程度行われ、治療導入から治療開始肢位の選択と確保、操作するべきポイントなどを目の前でみることができ、貴重な経験をさせて頂きました。

私は養成校を卒業後、ボバーステクニク・アプローチとして耳にすることは多くありましたが、実際に接する機会が少なく、神経発達学的治療としてのある手技的な模倣する程度でありました。その後も種々の臨床経験を積んでまいりましたが、

測定・評価や歩行能力向上の因子分析などが中心であり、治療技術に関する自己研鑽を怠っておりました。そのような中、数年前に日本ボバース研究会A会員による講義と実技デモンストレーションの機会がありました。そこで、ボバースコンセプトとして、改革・発展していることを知り、一度は研修会に参加したく思っておりました。しかし、興味を抱き始めた程度の私にとっては、正規に設定されているコースでは、費用・期間的問題もあったため実現しておりませんでした。しかし、今回、三沢にて研修が開催されることを知り、参加致しました。私にとって本研修会の内容は、難しいものではありませんでしたが、講義にて「ボバースセラピストの近代化のための13課題」という提示があり、全人的治療実践するためにも、ボバースコンセプトを理解するためにも解剖・生理・運動学などの基礎的な知識を身につけるとともに、種々の研修会での自己研鑽の重要性を実感することができました。

# スペシャルオリンピックス長野ボランティア体験記<1>

青森県立あすなる学園 須藤 宗

知的発達障害者のためのスポーツ競技大会、2005スペシャルオリンピックス冬季競技大会が、長野県長野市を中心に2月26日から3月5日まで開催されました。大会の様子については、青森のメディアでは取り上げられる機会が少なかったようですが、開会式や閉会式、あるいはスペシャルオリンピックス（以下、SO）についての番組がNHKで放送されていたので、御覧になった方もいらしたかと思います。今回、2月24日～28日の5日間、アスリートのフィジカルチェックを行う「ヘルシー・アスリート・プログラム（HAP）\*」というボランティアを通して大会に参加する機会を得ましたので、簡略ですが、参加した体験記という形でお伝えしたいと思います。

## 【参加資格は英語のできる方・・・？】

きっかけは、昨年10月下旬に学術局長の長谷川至先生から頂いた一本の電話でした。「知的障害者を対象とした国際的なスポーツ大会が長野で開催されるらしい。それで長野県理学療法士会から各士会宛に、ボランティアとして参加できる理学療法士を一人紹介してほしいという連絡が届いた。締切が2、3日後なので連絡網も間に合わないし、行って見ないか」といった旨の連絡です。障害者スポーツについて興味があり勉強していた矢先のことで、知的障害者のスポーツ大会に理学療法士として現場を知るよい機会でしたし、また日本で開催される障害者スポーツの国際大会だったこともあり、早速、長野医療技術専門学校の中澤住夫先生にご連絡し、参加することとなりました。頂いた参加資格の中に「英語でのコミュニケーション、講義受講が可能な方」という項目があり、「ねいていぶ・つがるしゅう」の私には荷が重いのではという不安もありましたが、「何も外国に行くわけじゃないし何とかなるだろう」と、この時点ではかなり楽観視していました。

\*ヘルシー・アスリート・プログラム：Healthy Athlete Program

普段見過ごされがちな知的障害者アスリートの健康管理を円滑に行うため、SOではスポーツ競技と並行して「ヘルシー・アスリート・プログラム：HAP」というスクリーニングを実施し、アスリートの健康状態の把握と教育を行っています。このプログラムには、聴覚、視覚、栄養、歯科、身体運動、足部機能の6部門があり、私が今回参加したのは、ファン・フィットネスと呼ばれる身体運動部門です。これは、米国理学療法士協会（APTA）とSO国際本部が協力して創設された部門で、今回も各国・各地域から多数の理学療法士が参加

していました。

## 【日本の中の外国】

24日の朝に長野入りして、いよいよHAPのスタートです。本当であれば、前日の内に長野に着いている予定だったのですが、青森発の特急が強風のため遅れに遅れて、大宮で一泊するはめになり、結局到着したのが受付開始の30分ほど前のことでした。

会場のホテルに到着し、受付フロアに上がるやいなや、それまでの安直な自信は吹き飛んでいました。前後左右、見渡す限り外国人です。話している言葉もまちまちで、英語すら満足に聞き取れないまま、受付の列に並びながら、「まいったなあ」と最初のため息をもらしました。しどろもどろになりながら何とか受付を済ませて、いよいよ講義のスタートです。最初はHAP参加者全員に対する概要についての説明でしたが、さすがに「native speaker」の英語にはついていけません。事前に資料をもらっていなければ早々に脱落していたことでしょう。

午後には各セクションに分かれて、専門の講義が始まりました。当然、英語での講義です。質疑応答も英語で、どこかわかるところがないだろうかと聞き耳を立てることで精一杯でした。ただ、そんな英語漬けの環境にいと、不思議なもので、「英語しか通じないなら、下手でもともと、使っただけ覚えるしかないか」と居直ってしまうものです。何人かとコミュニケーションをとっている内に、部屋全体の雰囲気もずいぶん和んでしまい、いつの間にか各々写真を撮り始めていました。日本人も私を入れて6人ほど参加していましたが、最初に意気投合したのは、インドネシアから来た理

学療法士のジェリーでした。振り返ると彼と共に過ごした時間が最も多く、公では英語コミュニケーションのアドバイスをもらったり、私では一緒に善通寺に行ったりと、楽しい思い出をつくることができたのも彼のおかげでした。

### 【FUN fitness】

ファン・フィットネス（FF）の詳しい活動については、違う機会に改めてご報告したいと考えていますので、ここでは割愛させていただきます。ただ、このセクションの雰囲気をご理解していただきたいので、若干説明を加えたいと思います。

私が今回参加したボランティアは、「HAP」と呼ばれるスクリーニング・プログラムの一つで身体運動部門にあたるFFということは前述の通りです。ただ、もう一つ重要な事項として、各国・各地域におけるS0メディカルスタッフの養成研修（トレイン・ザ・トレーナー：TTT）もこのボランティアには含まれているということです。ですから、3月1日以降も「HAP」は継続されていますが、私が参加した

のは研修を含んだボランティアということになります。

FFのTTTには、日本人6名を含めて23名の参加者が、世界各国・地域から集まりました。FFがもともとAPTAの協力を得て開発・発展してきた経緯もあり、参加者のほとんどが理学療法士です。そのため、共通の職業言語や理解認識があったおかげで、拙い英語しかできない私でも比較的スムーズに溶け込むことができたと思います。業務内容は、アスリートのフィジカルチェックを行い、それに基づいて運動指導を行うことです。フィジカルチェックは、柔軟性、筋力、バランス、全身持久力の4項目9テストあり、ガイドラインに沿って行われます。運動指導では、それぞれのテストで一定の基準に達しなかったものについて、イラストがふんだんに使われている指導用テキストブックを使用してアスリートやコーチに伝達します。また、使用したテキストブックは、自国・地域に帰ってからトレーニングができるように、アスリートにプレゼントされます。

## =監査情報=

社会局保険制度対策班 板井 英樹

整形外科的処置とされる消炎鎮痛等処置(一日につき)においてマッサージ等の、手技による療法{35点}があります。“マッサージ等の手技による療法とは、あんま、マッサージ及び指圧による療法をいう”(\*)と表記されていますが、マッサージを限定とする手技については、看護師(准看護師も含む)、理学・作業療法士などが行つての算定は出来ないとのこと。

『針灸マッサージ師及び柔道整復師(業務独占資格)』が行う治療手技であるとの見解です(医師は可能)。その他の者が行くと違法行為と指導があったようです(算定した場合)。

理学療法により算定する場合は、ストレッチ、マイオセラピー、マニュアルセラピー、モビライゼーション、触圧刺激法等の主となる手技と併用している場合は主となる手技の記載にて算定しなければなりません。

すなわち、主となる手技がマッサージであり、消炎鎮痛にて請求した場合は違法性を問われるとのこと(保健所からの指導)。

情報頂きました士会の方に厚く御礼申し上げます。

\*引用文献：診療点数早見表平成16年4月版

## 平成17年度「青森県理学療法士会新入会員ガイダンス」兼 「第1回青森県理学療法士会研修会」のご案内

下記の要項で、平成17年度「青森県理学療法士会新入会員ガイダンス」兼「第1回青森県理学療法士会研修会」を開催致します。あわせて新人歓迎会も開催致します。たくさんの会員で新入会員を歓迎したいと思っておりますので、ご多忙とは存じますが奮ってご参加下さるようお願い申し上げます。

日時：平成17年5月7日（土）～8日（日）

場所：東北メディカル学院（三戸郡五戸町字苗代沢 3-63 TEL：0178-61-0606）

タイムスケジュールおよび研修内容：

### 【5月7日（土）】

- ・受付：14:30～15:00
- ・テーマ1（新人ガイダンス）：15:00～16:20  
「協会組織と機構」（協会組織と機構）  
講師；長谷川 至（なかざわスポーツクリニック）
- ・テーマ2：16:30～18:00  
「介護予防のための筋力トレーニング（仮題）」（地域リハ・生活環境支援・社会の中の理学療法）  
講師；三浦 雅史（青森県立保健大学）
- ・新人歓迎会（懇親会）：18:30～  
場所；まきば温泉（三戸郡五戸町字苗代沢 3 TEL0178-62-5511）

### 【5月8日（日）】

- ・受付：9:00～9:30
- ・テーマ3：9:30～11:00  
「自立生活支援への理学療法士の関わりについて（仮題）」（生活環境支援・地域リハ・社会の中の理学療法）  
講師；塚本 利昭（弘前大学医学部附属病院）
- ・テーマ4：11:10～12:40  
「患者のやる気をおこさせるコミュニケーション（仮題）」（人間関係）  
講師；桜田 由起子（介護老人保健施設ハートランド）



東北メディカル学院へはまきば温泉を目標にいらして下さい。（外壁：茶色）

参加費:

- 1) 研修会参加費: 1 テーマ毎に 500 円
- 2) 懇親会費 : 5000 円
- 3) 宿泊費 : 4000 円 (まきば温泉 1 泊朝食付き, 2 ~ 4 名相部屋)

参加申し込み:

- 1) 研修会参加: 事前申し込みは必要ありません。
- 2) 宿泊・懇親会参加: 事前の受付が必要です。  
下記の申込先に FAX、E-mail で申し込んで下さい。

## 申し込み締切: 4月22日(金)まで

申し込み先(問い合わせ先)

なかがわスポーツクリニック リハビリテーション科

長谷川 至

TEL 0178-30-2020 FAX 0178-30-2022

E-mail(リハ科代表) nakasupo@hotmail.com

## 第1回青森県理学療法士会研修会抄録

### テーマ3 「自立生活支援における理学療法士のかかわり」

弘前大学医学部附属病院 塚本 利昭

「脊髄損傷患者の家屋改修」、「車いすを使用する児童の小学校就学へのかかわり」と題し、2 例の Case Presentation を行う。

「脊髄損傷患者の家屋改修」では、院内での自宅復帰に向けた理学療法の流れと、家屋改修、その後のかかわりについて紹介する。「車いすを使用する児童の小学校就学へのかかわり」では、脊髄腫瘍のため歩行困難となった児童が、車いすで地元の普通小学校に就学する際の学校におけるハード・ソフト両面に対するかかわりを紹介するとともに、障害を持つ児童の普通小学校就学全般に関する問題点も提示する。

この2 例の Case Presentation に共通した、院内での理学療法から在宅での取り組みを通じて、今回のテーマである「自立生活支援における理学療法士のかかわり」や理学療法(士)のあり方をみなさんと一緒に考えたい。

### テーマ4 「やる気を引き出すコミュニケーション」

介護老人保健施設ハートランド 桜田 由起子

新人の皆さん、まずは国家試験合格おめでとうございます。

さて、理学療法士の仕事は身体機能に着目した内容が主となります。しかし、体を動かす上で心理的側面を避けては通れません。いわゆる「モチベーション」という言葉で評価されるところですが、理学療法士との人間関係に左右されることも多い部分です。良好な関係を築くためには、こちらの考えを理解してもらうこと、相手の考えを受け取り理解することが必要ですが、なかなか難しいところでもあります。

今回は接遇を含む「コミュニケーション」を「患者さん・利用者さん(とその御家族)と理学療法士」が目標を同じくして理学療法を円滑に進めていくためにをツールの一つと捉え、実技を交えながら学んでみましょう。皆さんのこれからの職業人生を実りあるものにしていく一助になればと思っております。

# - ご案内 -

## 第20回リハ工学カンファレンス開催のご案内

リハ工学カンファレンスでは、障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的としています。

関係分野の方だけでなく、「リハビリテーションのための工学技術の応用」に興味をお持ちの方は、ぜひご参加下さい。

メインテーマ：佐賀で SAGA そう 人（ひと）・道具（もの）・技術（わざ）

サブテーマ：～みんなが輝く、みんなの連携～

開催日：2005年9月1日(木)～9月3日(土)

なお、カンファレンスの前後に日本リハビリテーション工学協会各 SIG 主催の講習会が予定されています。

会場：佐賀市文化会館

佐賀市日の出1-21-10 TEL0952-32-3000

主催：日本リハビリテーション工学協会

第20回リハ工学カンファレンス事務局

〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1-1

佐賀大学 医学部附属地域医療科学教育研究センター

福祉健康科学部門 松尾清美

TEL/FAX：0952-34-2187

<http://net.pd.saga-u.ac.jp/riha/>

E-mail:rehaconf@post.saga-med.ac.jp

## ～理学療法士求人情報～

### 財団法人鷹揚郷・腎研究所・弘前病院

募集職種：理学療法士 1名

待遇：当院規定により優遇（詳細は面接にて）

3年に1度の海外旅行あり（今年度はパリ・ロンドン）

問い合わせ先：財団法人鷹揚郷・腎研究所・弘前病院

〒036-8243 弘前市小沢字山崎90

TEL：(0172)87-1221 FAX：(0172)87-1228

担当者：事務長 中西 寿生

## 独立行政法人国立病院機構 八戸病院

募集職種・人員：理学療法士 1名  
待遇：国立病院機構職員給与規程による（詳細は面接にて）  
問合せ先：独立行政法人国立病院機構 八戸病院  
〒031-0003 八戸市吹上三丁目13-1  
TEL：(0178)45-6111 FAX：0178-43-7814  
担当：庶務班長 田中

## 大里脳神経リハビリテーションクリニック

募集職種：常勤理学療法士 1名（患者増加につき急募）  
待遇：当院規定により優遇（詳細は面談にて）  
学会、研究会への参加を奨励します。  
当院紹介：平成16年12月1日に開院した脳神経疾患診療と外来リハビリテーションを重視する無床診療所です。訓練室は理学療法、作業療法、言語聴覚療法に対応した面積と設備となっており、現在スタッフは計12名です。意欲のある方の応募を期待しています。  
応募方法：下記までお気軽にご相談ください。  
〒031-0816 青森県八戸市新井田西3丁目15-15  
TEL：0178-30-1112 FAX：0178-30-1600  
E-mail：[runners-high1930@h.vodafone.ne.jp](mailto:runners-high1930@h.vodafone.ne.jp)  
担当：院長 大里 孝夫

## 学校法人臨研学舎 東北メディカル学院

1. 募集職種：理学療法学科 専任教員
2. 募集人員：若干名
3. 応募資格：（1）理学療法士免許取得後実務経験5年以上  
（2）学生の教育・指導に情熱のある方
4. 待遇等：給与/当校規定により優遇します  
大学院進学援助制度あり
5. 応募方法：まずは下記まで電話またはメールで連絡ください  
〒039-1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢3-638  
TEL；0178-61-0606 FAX；0178-61-0034  
URL；<http://www.rinken.ac.jp> E-mail；[info@rinken.ac.jp](mailto:info@rinken.ac.jp)  
担当；加 福

# 【学術局通信】

## 平成17年度青森県理学療法士会研究助成公募のお知らせ

学術局々長 村上 三四郎

青森県理学療法士会では、士会員の積極的な研究活動を推進および支援することを目的に、平成15年度から研究助成制度をスタートさせました。

これから研究を新たに始めようと考えている方、これまでの研究を継続しようと計画している方は振るってご応募ください。多くの士会員、中でも若手のエントリーをお待ちしております。

### 【研究助成のQ & A】

Q 1 . どんな研究テーマなら応募できるの？

理学療法の発展に寄与・貢献するものであれば、テーマ（実験，調査，社会活動の効果などに関する研究）は特に問いません。

助成選考対象となるテーマについては、遠慮なくお問い合わせ下さい。

Q 2 . 応募資格は？

応募者または研究代表者は青森県理学療法士会会員でなければなりません。

Q 3 . 助成額はいくら？

助成総額は 10 万円です。助成額は選考委員の審査をもとに決定されます。

Q 4 . 助成件数は？

応募状況にもよりますが、原則として2件までとします。

Q 5 . 助成金の使い道は？

研究に必要と認められる経費、例えば消耗品費、機材購入費、打ち合わせ経費、研究協力者へのお礼（被験者等への謝金）等であればOKです。ただし、学会や研修会等への旅費や参加費として使うことはできません。また、機材購入のみを意図した使い方はできません。

Q 6 . 選考委員は誰？

選考委員は、研究助成選考委員5名（学術局長を含む）内規により学術局長が選任する。

Q 7 . どうやって選考するの？

選考委員5名がそれぞれ提出された書類内容を審査し、最終的に合議により採択するかどうかを決定します。選考結果は学術局から各応募者に通知され、また、青森県理学療法士会ニュースにも掲載されます。

Q 7 . 研究助成を受けた場合に遵守しなければならないことは？

以下の ~ を遵守しなければなりません。

**第30回青森県理学療法士学会（平成18年3月）での研究成果発表**

**「理学療法研究」23号（18年3月発行予定）または24号（19年3月発行予定）への論文掲載**

**収支報告書の提出（学術局長宛、様式3-1、2を使用のこと）**

Q 8 . 今後のスケジュールは？

**応募期間：平成17年4月1日～6月20日**

**選考期間：平成17年6月21日～6月30日**

**研究期間：平成17年7月1日～平成18年1月31日**

**収支報告書提出：平成18年2月6日まで**

**研究発表：平成18年3月開催予定の青森県理学療法士学会**

**論文投稿：「理学療法研究」23号または24号の投稿規定に従う。**

### 【応募要領】

1) 提出書類

ニュース巻末の様式をコピーするか、県士会ホームページから様式をダウンロードして、提出書類 ~ を作成して下さい。

または、下記問い合わせ先に応募書類を請求してください。

研究計画書 1部（様式1）

予算書 1部（様式2）

2) 提出期限

平成17年6月20日（月）必着

3) 提出および問い合わせ先

学術局長（村上）まで、郵送またはE-mailに添付して提出してください。

〒033-0001 三沢市中央町4-1-10

三沢市立三沢病院リハビリテーション科内  
青森県理学療法士会学術局々長

村上 三四郎 宛

TEL : 0176-53-2161 FAX : 0176-52-6023

E-mail : misawahpriha@yahoo.co.jp

# 理学療法研究第23号（2006年3月発行予定）の投稿募集のご案内

学術局学術誌編集部 土橋 真由美

理学療法研究第23号（2006年3月発行予定）の原稿を募集致しております。投稿を希望される方は、理学療法研究第22号の投稿規定および執筆要綱 P65～67 をご覧頂き、締め切り日までに原稿を下記投稿先に郵送にてお送り下さい。なお、投稿原稿の保存メディアについては、校閲後にあらためて提出（11月上旬予定）して頂きますので、その旨よろしくお願いたします。

## **投稿締切日：2005年9月30日（金）必着**

投稿先・問い合わせ先

〒036-8564 弘前市本町66-1

弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻内

青森県理学療法士会学術局 学術誌編集部 土橋 真由美 宛

TEL & FAX : 0172-39-5981

E-mail : dobashi@cc.hirosaki-u.ac.jp

## **【事務局通信】**

**異動の時期となりました。**

**異動のある方は、先月号県士会ニュース(NO.264)の  
会員異動届に必要な事項記入の上、  
事務局まで送付してください。**

〒038-1216 南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

県士会事務局 ときわ会病院 リハビリテーション科内

佐藤 比呂子 宛

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail ; ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp

## 【財務部通信】

### 会費自動引き落とし者へ

平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われました。下記へ振り込みをお願いします。  
柳 郁子、大塚 聖子、桜庭 麗香、菊池 宏充

### 会費自動引き落とし以外者へ

下記へ振り込みをお願いします(3月24日現在)  
中野 のぞみ、樋口 亜絹子、大久保 千明、伊藤 紗岐子

会費納入方法は下記の通りです。

**士会費12,000円の振込先** 振込み手数料 210 円  
みちのく銀行 黒石支店 店 番 0 2 4 口座番号 0 1 1 7 0 1 3  
名 義 名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

**協会費11,000円の振込先** 振込み手数料 120 円  
郵便振替で 口座番号 0 0 1 3 0 - 3 - 7 8 6 4 2  
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

**記入例** [平成 16 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号  
と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下された施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても 6 月 15 日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。連絡を下されば引き落としの申込書を送らせて頂きます。どうぞ御協力お願いします。

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科  
佐藤 洋  
TEL 0172-62-4055(271)

## 【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成17年4月21日(木曜日)です。  
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に  
フロッピーディスク、FAX、E-mail のいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス  
<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

## § ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号

TEL 017-762-5500 FAX017-729-3260

E-mail: celeste\_urg1@mail.goo.ne.jp

(電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のもので、ご注意ください。)

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail: reimeipt@h7.dion.ne.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）

工藤 寛教（あおもり協立病院）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部(HP担当)；安田 友久（青森労災病院）

### 編集後記

雪も解け始め、やっと春らしくなってきましたね。春といえば、新人が入ってくる季節ですね。今年は何人入るのでしょうか？楽しみです。私も(?)年前は初々しい新人でした・・・。

四月は新人歓迎会や花見などで、飲み会が多いと思いますが、みなさん、飲みすぎには注意しましょうね。  
(文責：伴)

### 奥付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216 南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail; ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp